

令和8年度
運営に関する計画

大阪市立玉造小学校

令和8年4月

学校運営の中期目標

(1) 安全・安心な教育の推進

中期目標	年度目標
<p>○令和 11 年度末までに、小学校学力経年調査における「学校に行くのは楽しいと思いますか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を <u>87%</u>以上にする。</p> <p>○令和 11 年度末までに、小学校学力経年調査における「自分には、よいところがありますか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を <u>88%</u>以上にする。</p>	<p>①小学校学力経年調査における「学校に行くのは楽しいと思いますか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を <u>82%</u>以上にする。(R7 81.6%)</p> <p>②小学校学力経年調査における「自分には、よいところがありますか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を <u>81%</u>以上にする。(R7 80.8%)</p>

(2) 未来を切り拓く学力・体力の向上

中期目標	年度目標
<p>○令和 11 年度末までに、小学校学力経年調査における「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を <u>83%</u>以上にする。</p> <p>○令和 11 年度末までに、小学校学力経年調査における「運動（体を動かす遊びを含む）やスポーツをすることは好きですか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を <u>88%</u>以上にする。</p>	<p>①小学校学力経年調査における「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、新たな考え方に気づいたりすることができていますか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を <u>82%</u>以上にする。(R7 81.4%)</p> <p>②小学校学力経年調査における「運動（体を動かす遊びを含む）やスポーツをすることは好きですか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を <u>85%</u>以上にする。(R7 84.9%)</p>

(3) 学びを支える教育環境の充実

中期目標	年度目標
<p>○令和 11 年度末までに、小学校学力経年調査における「学習者用端末を活用して、調べた情報をもとに、課題を解決するために情報を収集・整理し、まとめ・表現する取組をしていますか。」に対して、肯定的に回答する児童の割合を <u>80%</u>以上にする。</p> <p>○時間外勤務時間について、年 720 時間を超えて実施する教員をゼロにする。</p>	<p>①小学校学力経年調査における「学習者用端末を活用して、調べた情報をもとに、課題を解決するために情報を収集・整理し、まとめ・表現する取組をしていますか。」に対して、肯定的に回答する児童の割合を <u>77%</u>以上にする。(R7 76.9%)</p> <p>②時間外勤務時間について、年 720 時間を超えて実施する教員をゼロにする。</p>

大阪市立玉造小学校 令和8年度 運営に関する計画・自己評価（目標別シート）

評価基準	A：目標を上回って達成できた C：取り組んだが目標を達成できなかった	B：目標どおりに達成できた D：ほとんど取り組めておらず目標も達成できなかった
------	---------------------------------------	--------------------------------------------

(1) 安全・安心な教育の推進

年度目標	結果	達成状況	分析
①小学校学力経年調査における「学校に行くのは楽しいと思いますか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を82%以上にする。(R7 81.6%)			
②小学校学力経年調査における「自分には、よいところがありますか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を81%以上にする。(R7 80.8%)			

年度目標①の達成に向けた取組【方向1 安全安心な教育環境の実現】

	取組内容	取組の進捗状況を測る指標	進捗状況	分析	次年度への改善点
取組 1	<p>安心して学校に通うことができる教育環境を整えるために、日々の児童観察等により、いじめ・不登校・児童虐待の兆しを発見し、スクリーニング会議で課題を共有し、対策を検討することで支援につなげる。</p> <p>自己の有用感を高めることができるような取組を模索する。</p>	<p>・いじめ、不登校、虐待等の課題解決に向けて、月1回のスクリーニング会議①（いじめ・問題行動対策委員会）で、情報共有と対策協議を行う。</p> <p>・関係諸機関と連携して対策を検討し、支援につなげるために、学期に1回スクリーニング会議②を開催する。</p> <p>・学期に1回以上、異学年（たてわり班・ペア学年など）で交流することができるような取組を模索する。</p>			

年度目標②の達成に向けた取組【方向2 豊かな心の育成】

	取組内容	取組の進捗状況を測る指標	進捗状況	分析	次年度への改善点
取組 2	<p>認め合い高めあう集団を育成するために、年度当初に学年・学級目標を設定し、互いの良さを認め合うことで集団の力を高める指導を意図的・計画的に行う。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・全ての学級で、4月に、集団の力を高めるような学級目標を作成し、日常的に目標を基盤にした指導を行う。 ・全ての学級で、友達や自分のよさを認め合い、お互いを高め合うことができるような取組を行う。 ・全ての学級・担当で、「人権教育・啓発推進計画」に沿って、人権教育を進める。 			

大阪市立玉造小学校 令和8年度 運営に関する計画・自己評価（目標別シート）

評価基準	A：目標を上回って達成できた	B：目標どおりに達成できた
	C：取り組んだが目標を達成できなかった	D：ほとんど取り組めておらず目標も達成できなかった

(2) 未来を切り拓くための学力・体力の向上

年度目標	結果	達成状況	分析
①小学校学力経年調査における「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を <u>82%</u> 以上にする。(R7 81.4%)			
②小学校学力経年調査における「運動（体を動かす遊びを含む）やスポーツをすることは好きですか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を <u>85%</u> 以上にする。(R7 84.9%)			

年度目標①の達成に向けた取組【方向4 誰一人取り残さない学力の向上】

	取組内容	取組の進捗状況を測る指標	進捗状況	分析	次年度への改善点
取組 1	国語科の学習を中心に様々な教科において、児童が対話的な学びを実感できるように取組を実践する。	<ul style="list-style-type: none"> 年間6本の研究授業を行い、表現活動の充実に向けて検討、討議を行う。 全ての学級・教科担当で、話し合い活動を取り入れた授業を展開し、対話的な学びに向けた授業を実践する。 情報収集、意見交流にすべての学級でICTを活用する。 			

年度目標②の達成に向けた取組【方向5 健やかな体の育成】

	取組内容	取組の進捗状況を測る指標	進捗状況	分析	次年度への改善点
取組 2	<p>児童が主体的に学習に取り組 み、運動の楽しさを味わい、体 力・運動能力を向上させるため、 体育科の授業を工夫・改善する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・スモールステップ、ドリルゲーム、タスクゲーム等を取り入れ、どの子も「やってみよう」と感じるよう指導法を工夫する。 ・全ての学級で、「対話的な学び」のある体育授業を実践する。 ・全ての学級で、授業において1・2年は年間1回以上、3・4・5・6年は年間3回以上、ICT機器を活用する。 			

大阪市立玉造小学校 令和8年度 運営に関する計画・自己評価（目標別シート）

評価基準	A：目標を上回って達成できた	B：目標どおりに達成できた
	C：取り組んだが目標を達成できなかった	D：ほとんど取り組めておらず目標も達成できなかった

(3) 学びを支える教育環境の充実

年度目標	結果	達成状況	分析
①小学校学力経年調査における「学習者用端末を活用して、調べた情報をもとに、課題を解決するために情報を収集・整理し、まとめ・表現する取組をしていますか。」に対して、肯定的に回答する児童の割合を <u>77%</u> 以上にする。(R7 76.9%)			
②時間外勤務時間について、年 720 時間を超えて実施する教員をゼロにする。			

年度目標①の達成に向けた取組【方向6 教育DX（デジタルトランスフォーメーション）の推進】

	取組内容	取組の進捗状況を測る指標	進捗状況	分析	次年度への改善点
取組 1	学校生活において積極的にICTを活用し、情報収集や情報共有をする。 学習活動においてICTを活用した意見交流を積極的に行う。	・1日1回以上「心の天気」の入力をする。 ・1日1回以上デジタル教科書、デジタルドリル、インターネットを積極的に活用する。 ・単元活動で1回、SkyMenuの発表ノート、PowerPoint、Teamsを活用した意見交流に取り組む。			

年度目標②の達成に向けた取組【方向7 人材の確保・育成としなやかな組織づくり】

	取組内容	取組の進捗状況を測る指標	進捗状況	分析	次年度への改善点
取組 2	教職員のもてる能力を発揮し、質の高い教育活動を創出できるよう、本来業務に専念できる環境づくりと業務の効率化・軽減を図る。	<ul style="list-style-type: none"> ・基本的に6時半までの退勤を目指し、週1回はNO残デーを設定する。 ・会議の回数や内容、参加者を精選し、放課後の業務を整理する。 			